

<全体分析>

試験時間 60 分

解答形式

マーク式 36 問・記述式 13 問・論述式 1 問

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易(易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

大問数は昨年度と同じ 4 題。総解答数も昨年度と同様に 50 問。例年同様に論述問題(100 字)が 1 問出題された。正誤判定問題の出題数は 9 問で、一昨年度 18 問、昨年度 14 問と減少傾向にあり、2 年で半減したことになる。昨年度と同様に正誤判定問題を中心に難問が散見され、全体として難易度の高い状況が続いている。

出題の特徴や昨年との変更点

欧米史 3 題、アジア史 1 題という欧米重視型の商学部の傾向通りに出題された。年代整序にかかわる問題は、昨年度は 3 問出題されたが、今年度は出題されなかった。

その他トピックス

例年、時事的な問題や近年話題になっている出来事などが出題されるのが本学部の特徴であるが、昨年度は大問Ⅳでエリザベス 2 世の死去が、今年度は大問Ⅲでトランプ政権下での環太平洋連携協定(TPP)の脱退が出題された。昨年度に続き今年度も、大問Ⅱは、中国史中心の問題で、正誤判定問題がなく、設問のすべてが語句選択問題であった。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	マーク式	古代ローマの建造物	問A. 2. カルタゴがティルスにより建設されたことは、難関私大の定番。これが分かれば、消去法でも正解を絞り込める。問G. タレントウム・ポンペイは難関私大で必須。カプアは 2020 年度商学部で出題されたが細かく、消去法でも絞り難い。問H. キケロが共和政末期、ホラティウスがアウグストゥス期であることを知っていれば、消去法でも絞れる。問I. トラヤヌス・ハドリアヌス・アントニヌス=ピウスの在位年を把握しておく必要があり難しい。問J. 3. 「ローマ帝国全体」ではなく「ローマ帝国西半部」が正しいが、非常に細かい。1 の内容も細かいが、ブルンディウムは早大で過去に出題されており、これを正文と判断できれば消去法で解ける。適切な記述を選ぶ問B・問E・問F・問Lは、一部の誤文で受験レベルを超える知識が要求されるが、正文は比較的平易である。	やや難
II	マーク式	4～7世紀の東アジア史	問F. 劉裕はやや細かいが、難関私大では出題されるので覚えておきたい。問L. 初見の選択肢が並び戸惑った受験生が多かっただろうが、舞楽の正確な知識を求めているというより、渤海が高句麗の遺民と靺鞨人が統合されて建国されたことから推測させる問題であろう。	やや易

III	マーク式	イギリス・アメリカの2大政党制の歴史	<p>問B. 「イギリスから送られた」を手掛かりにすれば正解は容易。ただ、ヴァージニア植民地でのタバコ栽培の主要労働力が、17世紀前半の入植初期は先住民や白人年季奉公人だったが、17世紀後半以降は黒人奴隷となったことに関して、早大では2019年度の商学部などで問われているので知っておきたい。問D. 連合規約では、中央政府の権限が弱く、条約締結の権利はあったが、徴税権はなかった（このことは2016年度商学部などで出題されている）。そこで、中央政府の権限を強化した合衆国憲法では、制定時から両権利が含まれていたと推測できれば、消去法で正解に迫れるが、難問である。問E. 2. デフォルト（債務不履行）ではなく全額返済だが、細かい。ハミルトンは早大で頻出だが、初代財務長官（ワシントン政権）、連邦派（フェデラリスト）の中心という知識以外はやはり細かく、難問。問H. ジャクソン時代に男性普通選挙制が普及するので、2と迷ったかもしれないが（実はすべての選択肢がジャクソン時代に関連する）、文脈から判断する問題。問J. 4. スムート=ホーリー関税法は、商学部では2020年度に記述式で出題されている。</p>	やや難
IV	記述式 論述式	帝国主義時代の欧米諸国	<p>空欄2は「クルップ」を解答例としたが、限定が弱いと他の企業名も入り得るだろう。空欄3「銀行（銀行資本）」のような一般名詞を答えさせる問題や、空欄10「西アジア（イラン、バルカン半島）」のようないくつかの別解が想定される問題も、商学部の記述式問題の特徴なので慣れておきたい。14. 「1878年に締結された二つの講和条約」「締結の経緯」「両条約がもたらした結果」を100字以内で説明する問題。問題自体は取り組みやすく、様々なことが書けそうだが、字数が限られているので、要点を絞ることが重要。条約の具体的な内容は求められていないことがポイント。解答例では、露墺の対立激化で結んだが、それに代えて、ベルリン条約への経緯としてイギリスのインド航路確保やオーストリアのバルカン進出を目指す動きなどを指摘してもよいだろう。</p>	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

高校教科書を中心に標準的な知識を問う設問を確実に解答できるようにしておきたい。正誤判定問題は、同大学の他学部の問題を使用するなどして経験を積んでおこう。欧米、特にアメリカ合衆国の近現代史は頻出分野なので、早くから学習計画を立て、過去問を利用するなど対策を講じてほしい。論述問題に関しては、受験世界史の知識だけでは対応しにくい問題が出題される年もあるが、教科書レベルの知識で解答できる年が多い。時事的な問題にも関心を払っておこう。